

# たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

TEL : 0173-57-9022

E-mail : t\_gijyutu\_c@maff.go.jp

HP : <http://www.rinya.maff.go.jp>

/tohoku/syo/gizyutu/

## 東北森林管理局技術開発委員会の開催（課題の一部紹介）

令和4年12月15日（木）に東北森林管理局において、令和4年度東北森林管理局技術開発委員会が行われました。

当委員会は学識経験者や地域林業関係者など外部の委員を交えて毎年同時期に開催されており、森林技術・支援センターが実施している技術開発課題についての進捗状況や今後の方向性、また新たに設定する新規課題に関する審議が行われます。今年度は2つの完了課題、3つの経常課題、1つの新規課題について審議が行われました。

今回は経常課題の一つである『カラマツ挿し木コンテナ苗による植栽試験（技術開発期間：令和2年度～令和6年度）』について紹介します。



（審議の様子）

### ①取り組んだ背景

カラマツは成長が優れ、下刈省略など造林コストの低減が期待されています。また、素材としての需要拡大を受け、造林樹種として注目されています。

一方、カラマツの種子は着果の豊凶の影響を受けるため恒常的に不足している状況であり、安定的な種子・種苗の生産と供給が課題となっています。

このような中、慢性的なカラマツの種苗不足を補う技術として「カラマツ挿し木コンテナ苗」が開発されたことから、実用化へ向けた検証を行うことを目的に実施しています。

### ②調査概要

岩手県雫石町の網張国有林784林班る3小班において、令和2年度春に東北育種場より提供を受けた精英樹4系統（吾妻6号、諏訪16号、沼津101号、南都留1号）の挿し木コンテナ苗と、対照として市販されている普通コンテナ苗をランダムに植栽し、カラマツ挿し木コンテナ苗の生存率・成長量等を検証するために調査を行っています。

併せて、150ccと300ccの2種類あるコンテナ苗のコンテナ容量の違いによる成長差や、光合成能力の増強による成長促進が期待されるグルタチオンを挿し木の育苗

期に施肥した場合の植栽後の成長への影響についても検証することとしております。

### ③これまでの調査結果と経過

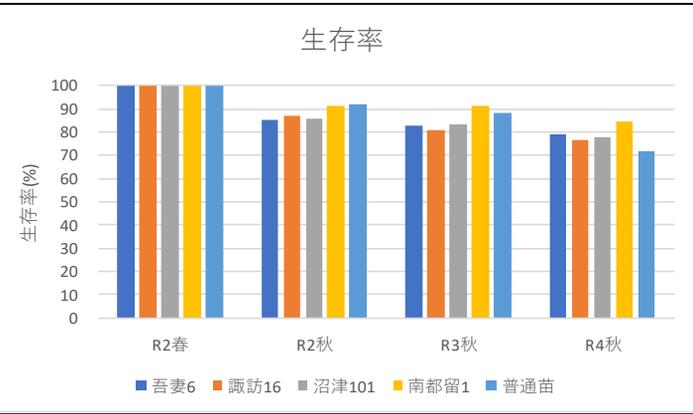
調査した途中経過について、お知らせします。

#### 1. 生存率

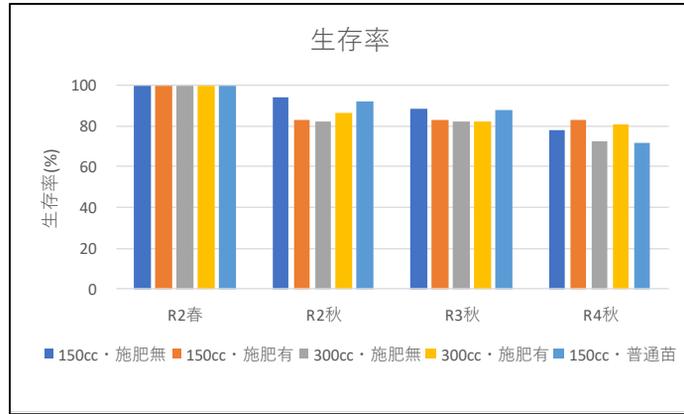
令和2年度に試験地を設定して今年度で3成長期を経ましたが、挿し木苗、普通苗とも生存率は70%~80%となっており、品種ごとには大きな違いは見られませんでした。また、コンテナ容量や育苗期の施肥による違いについても明確な違いは確認されませんでした。

#### 2. 成長量

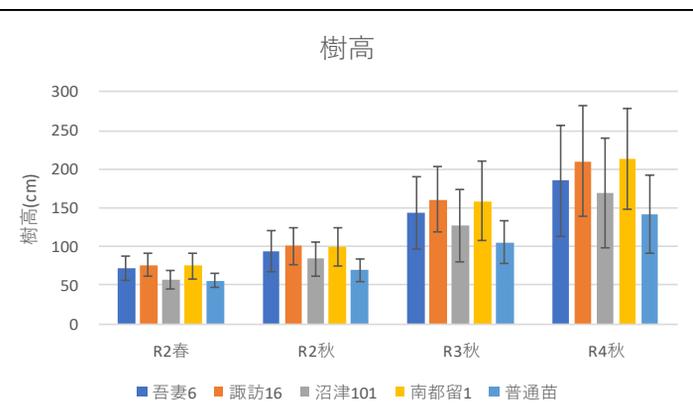
成長量について、挿し木苗は系統別に多少差があるものの、普通苗と比べて樹高・根元径とも高い値を示しました。



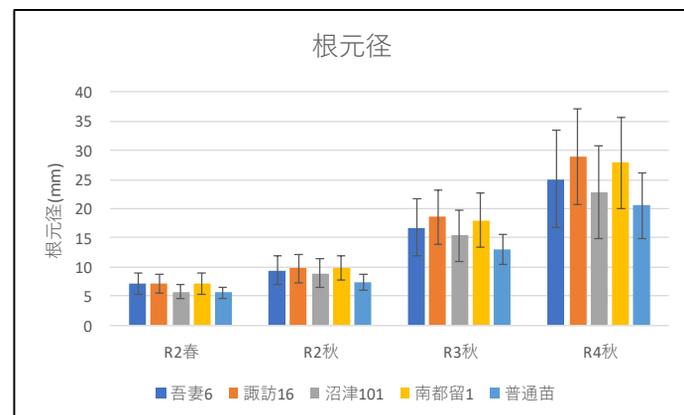
(系統による生存率の違い)



(コンテナ容量、施肥による生存率の違い)



(系統による樹高の違い)



(系統による根元径の違い)

### ④今後の展望

今後も挿し木苗と普通苗の繁殖方法や系統、コンテナ容量等の違いを考慮しながら、生育を注視する必要があるとあり、新しい選択枝としての「カラマツ挿し木苗」実用化へ向けて、継続調査していきたいと考えております。

完了課題については「特定母樹挿し木コンテナ苗による低コスト造林試験」、「2条3条植栽による下刈りの省力と多様な森づくり」の完了報告を行い、評価・指導のコメントをいただきました。

併せて新規課題として、平成28年度から令和2年度までの検証で東北地方での良好な生育を示すことが確認された早生樹(ユリノキ)について、令和5年度から令和9年度までの5年の期間で、引き続き更新特性を調査するとともに、需給実態を調査することを報告し、今後に向けての貴重なコメントをいただきました。

関係機関や各署の皆様のご協力、ご指導を賜りながら、今後とも積極的に取り組んで参りたいと考えております。

(副所長 後藤)

## 東北森林管理局で基礎全般研修の講師

当局では森林・林業に関する知識や技術習得を目的として様々な研修を実施しており、令和4年12月7日(水)に新規採用者を対象とした森林管理の基礎的な内容に関する研修が実施され、「技術開発について」講義を行ってまいりました。

講義の内容は、主に「技術開発の必要性」、「東北森林管理局の取組」、「当センターの役割と取り組んでいる課題」、「技術開発成果の普及と支援」などについて説明しました。

また、技術開発の具体的な事例として、現在、当センターの課題として取り組んでいる「ヒバ天然林施業」や「多雪寒冷地における大苗植栽」、「カラマツ挿し木コンテナ苗による植栽試験」、「早生樹ユリノキの特性」などについて説明しました。

特に、試験地を撮影したドローンの動画や実物の青森ヒバの実・ユリノキの種を見せたところ、研修生が興味深そうにしていたのが印象に残っています。

当センターでは、外部機関等への情報発信や技術の普及・支援だけではなく、今後も研修等の機会を通じて、職員への技術開発の普及も進めて参ります。

(業務係長 岡本)



(研修生の皆さん)



(講師の岡本業務係長)

### ～編集後記～

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

職員は現在、青森県森林・林業・木材関係研究発表会(開催日:令和5年2月9日)や東北森林管理局で行われる森林・林業技術交流発表会(開催日:令和5年1月31日～2月1日)、また、来年度の技術開発課題に向けた準備などに取り組んでいます。

皆さまにおかれましては、これから寒さが厳しく?なると思いますし(ならないでほしい)、今シーズンはインフルエンザ流行の情報もありますので、体調管理に気をつけてくださいね。

